

第2回那覇空港調査PI評価委員会
議事録

1 日時 平成17年11月16日(水) 13:30～15:30

2 場所 沖縄かりゆしアーバンリゾート・ナハ 6階 ニライの間

3 出席者

(1) 委員(五十音順)

琉球大学名誉教授

上間 清

弁護士

大城 浩

フリージャーナリスト

崎山 律子

淑徳大学国際コミュニケーション学部客員教授

廻 洋子

(2) 那覇空港調査連絡調整会議からの参加

内閣府沖縄総合事務局開発建設部港湾空港指導官

酒井 洋一

国土交通省大阪航空局飛行場部次長

梅野 修一

沖縄県企画部参事

傍士 清志

(3) 内閣府沖縄振興局からの参加

内閣府沖縄振興局振興第三担当専門官

篠 良一

4 議 事

(1) 開会

司会

本日はお忙しい中、委員の皆様にはご出席いただきまして大変ありがとうございます。ただいまから、第2回那覇空港調査P I評価委員会を始めさせていただきます。

私は本日の進行役を務めさせていただきます沖縄県の交通政策課長の中村でございます。よろしくお願いいたします。

(2) 委員及び出席者紹介

司会

それでは早速ですが、本日ご出席いただいております委員の先生方、並びに出席者をご紹介させていただきます。

まずP I評価委員会委員の皆様からご紹介いたします。

琉球大学名誉教授で、本委員会の委員長であります上間清委員でございます。

次にフリージャーナリストの崎山律子委員でございます。

堤委員はちょっと遅れております。

次に淑徳大学国際コミュニケーション学部客員教授で国土交通省の審議委員でもあります廻洋子委員でございます。

弁護士の大城浩委員でございます。

なお、本会議には内閣府の沖縄振興局からご出席をいただいております。沖縄振興局振興第三課の篠専門官でございます。

引き続きまして事務局のメンバーをご紹介いたします。

沖縄総合事務局開発建設部の酒井港湾空港指導官でございます。

沖縄総合事務局港湾・空港整備事務所の三宅所長でございます。

大阪航空局飛行場部の梅野次長でございます。

最後に沖縄県傍士参事でございます。

以上で紹介を終わらせていただきます。

それでは、これからの議事進行につきましては、上間委員長によりしくお願いいたしたいと思っております。

(3) 議事

上間委員長

それでは、前回でご提供いただいたP I実施計画に基づいて、第一段階のP Iステップ1の実施がされましたので、事務局の報告書に基づいてご説明いたします。

事務局

(P I (ステップ1) 実施報告について説明、DVD 放映)

上間委員長

以上、「P I (ステップ1) 実施報告」でございました。中身は広報活動、情報提供、意見収集等について、詳しく説明していただきました。

それから、大事なところは 21 ページにもございましたけれども、この P I 活動の評価について、この報告書は事務局の案であります。こういうふうな評価ができるのではないかと提案であります。委員の皆さんにおかれてもお考えいただきたいと思います。

それでは、報告に対する質問、ご意見をいただきます。よろしく願いいたします。

崎山委員

ご苦労様でした。ちょっとお聞かせいただきたいのですが、このアンケートの結果を見ますと、圧倒的に男性が多いですね。沖縄県民にしては珍しく女性の声になかなか出ないなと思ったら、説明会の持ち方を見てみましても、どの会場でも男の顔しかほとんど出ていませんね。これはやっぱり説明会の持ち方にどんな工夫をなさったのか。呼びかけるときにもっと女性が参加しやすいような工夫がもう少し必要だったのではないかなと思うんですが、パレット市民劇場の 2 回の会場も、それから自治会館も含めて圧倒的に男性が多い。これはお知らせの仕方にもうひと工夫必要だったのではないかなということが 1 つ。

それから新聞の広告はかなりお金をかけて両紙に広告なさいと思いますけれども、私は P I という言葉を皆さんから教えていただいたので、この新聞記事をちゃんと見る事ができたのですが、コマーシャルにしては、インフォーマーシャル(情報提供を主体とした広告)にしてはもう少しもっとビジュアル的に引き付ける、「空港への意見を」という感じの工夫が必要で、せっかく琉球新報・沖縄タイムスという両紙に広告をしたのに、こちらの伝えたいことが全部データとして入っているものですから、関係者はみんな満足なんでしょうけれども、全然知らない人は、空港について意見を言おうとか、そのデザインを知らせる、アピールの仕方に今後工夫が必要なのではないかなと考えました。非常に言い足りなくても、ビジュアル的にもっと工夫して、小さいお子さんから幅広い意見をもう少し求める工夫が必要だったのではないかなと。その結果が各説明会にあまり多くの人たちが来なかったこととかに反映されてないかなと。

今後、P I、那覇空港についての意見をもっと幅広い人たちに聞かせ、また声を吸い上げるとしたら、少しイントロダクション(導入)と言うか、空港の物語をもう少し工夫する必要があるかなと感じました。そういう意味でデータに出てきているかなと。

せっかく県民広場、県庁でやっても、5 日間やって 86 人は少なすぎます。こ

れは県庁でやるにしても、もう少しいろんな人たちに呼びかけるきっかけづくりはちゃんと必要だったのでないかと思います。

ですから、どんなふうにしたら多くの人たちに声をかけられるか。県民広場でいろんな催しをやっていきますけれども、私などは県庁に行くたびに足を運ぶのですが、ふと足をとめる、その工夫が少し必要だったのではないかなと思います。

最初は予定していなかったけれども、追加的にラジオやテレビに出たというのは、結果的にはよかったと思いますが、逆に言えばもう少し計画的に浸透するやり方を工夫する必要もあるのかなと感じました。

ですから、今後この説明会をもつ場合に、この説明会をどんな形で趣旨徹底して、より多くの県民を集めるとか、それから情報をもっと共有できるためのわかりやすいデザインに少し工夫していく必要があるのではないかなと感じたんですけど。

とりあえず早いだけがとりえで、意見を言いました。よろしく願いいたします。

事務局

貴重なご意見どうもありがとうございました。大きく2点いただいたうちの最初の男女の比率の件でございますが、実は私どもの中でも、女性が4分の1程度ということで、もう少し女性からご意見をいただくようにするにはどうしたらいいだろうかという議論をいたしました。

原因は崎山先生がおっしゃっているとおり説明会にそもそも来ておられる方がほとんど男性であるということに相当起因するのだろうと。私どもは説明会を開催するにあたって、どういう呼びかけをしたかと言いますと、2時間程度拘束して聞いていただくわけですから、全く一般の市民というよりは、那覇空港に日頃から関心をお持ちの方々をどうしても中心にご案内する。例えば旅行業界の方々ですとか、あるいは空港の関係者ですとか、そういった空港の関連の方々を主に対象にした。そのほかにも障害者の方々にも個別に声をかけたりという工夫もしましたけれども、関係者に声をかけたけれども、その性別がどうしても男性に偏っているという、こういう実態がございます。

ただ、それをもってやむを得ないとするにとどまらず、今後はできるだけ少しでも女性にご意見をいただくような工夫をしていきたいというふうに考えてございます。

それから、新聞の広告をはじめとする広報のあり方は、全くご指摘のとおりでございます。新聞記事もかなり情報をてんこ盛りにしてしまいまして、もっとキャッチにやったほうがよかったかなという反省を今にしてはしてございます。幸いにして今後、ステップ2、ステップ3のプロセスが残ってございますので、いただきましたご提言を参考といたしまして、十分反省点として次に生かしてまいりたいと思っております。ありがとうございました。

上間委員長

今報告をいただいて、県民への周知、広報のアクセスとしては、私の印象として、これ以上ないくらいやっている印象です。参加者が少ないということは、県民の関心の程度にも要因があるかもしれません。文化的な講演会をすると大体8割ぐらいが女性です。こういう難しいものになると女性の関心はいまひとつ、そのへんのこともあるかもしれません。

細かい内容については、ご意見のあったところを今後生かしていただきたいというふうに思います。

どうぞほかの委員の皆さん。

廻委員

非常に大変な作業だったと思いますし、あるメッセージを県民全体に伝えるというのは、なかなか大変なことなのですが、私が前の職業がマーケティングだったものですから、こういうものは割合気になるので、ちょっと辛めの評価になってしまうかもしれないのですが、気がついたことを何点か申し上げさせていただきます。

まず1点目ですけれども、広報の仕方の構造(ストラクチャー)を立てた人がいないというか、何となく積み重ね式でやったのではないかという印象を受けました。

と言いますのは、あることをみんなに伝えようと思いますと、まず何を言うかをクリアにしたほうがいいと思うんですね。ところが、残念ながらさっきのビデオもそうなのですが、一番最初に「那覇空港の調査報告」と書いてあって、下に「那覇空港を一緒に考えましょう」となってますけど、ビデオを見るとタイトルのつけ方は、確かこれに合わせたのでしょうけれども、これではわからないということで、あとで取り替えたんですよね。やはり「那覇空港のことを皆さん一緒に考えましょう。あなたも参加してください」というのがメッセージのポイントだったと思います。やはりその言葉を何事にも同じように使うべきだったのではないかと。

と言いますのは、ここでやっている広報活動のメッセージが、割合いろいろなものがあって統一性がないんですね。統一性がないと効果が半減するんです。

「改革なくして…」何となく、いつも同じことを言っている人がいますけれども、あれは同じことを言うのは非常に効果があるわけですね。同じことをずっと言うとうわりやすい。そういうところは学んでよろしいのではないかと思います。

広報をするときに大切なのは、何を言うかというメッセージと、それからどこで言うかということですね。どこでというのは、メディアであったり、駅前であったり、あるいは役所であったり、いろんな場所がありますけれども、それをどのように言うかということですね。これが何をどこで言うか、どのように言うか

と、それからいつ言うかですね。結構、プランを見ると、いつというのが書いてないので、このプランをつくる時にメッセージとそれから使用するメディアや、場所、説明会であったり、イベントであったりですが、そしてそれをいつ言うかということなどを、年間のプランとしてきちんとお立てになる方がよいでしょう。例えば、あまり長々言っても全然伝わらないメディアもあれば、きちんと説明したほうがいい広報誌とか、インターネットとかありますよね。

では、新聞はどう使えばいいかと。一発で全部メッセージを入れて、きっちり書いて読んでいただくか、あるいは小さいメッセージで「あなたの声をください」とするか。確かに沖縄タイムスってうまいんですけど、「空港拡充に関して幅広い意見を」と、こういうのはうまいですね。こういうのは使えるものです。

そういうことでああなたの意見をください。資料は提供しますと。資料の請求がどれだけきたかで、このPIに対する、PIをやっているんだというアウェアネス（認知度）の証明になるわけですね。

どれくらい資料請求がきたか、そのへんをもう少し調べたほうがよいでしょう。

いつ言うかということ、これは例えば説明会をやるのと、新聞に出るときと、自分である程度コントロールできるものは、いつどういう順番に、どういうふうにやったほうがいいのかということを考えながら、プランを練ってからやったほうがよいです。これはすごく時間がかかる（タイムコンシューミング）事業ですから、非常にエネルギーの節約のためにも効果的なメッセージ性とメディアとか場所の選択と、タイミングの選択というのをもう少しちょっとプロフェッショナルっぽくやっていただくと効率がよかったのではないかとというのが1点。広報の仕方ですね。

それから、具体的なものなのですが、沖縄タイムスとかに広告を出したときに、資料請求を入れてましたっけ…。これと同じ内容になってしまうので、これは全部書いてあるんですけど、「8月1日より配布」と書いてありますね。これは「資料をご請求ください」と書いて、それによって資料を請求してもらうようにして、私だったらこんなぎっちり書かないで情報をもっと少なくして資料を配るようにしたと思います。1回だとあれですがね。コストパフォーマンスの関係です。

それから上間先生がおっしゃったように、全部の層をカバーしているようなんですが、若い人は新聞を読まないんですね。これは調査で出ていることなんです。うちの学生に聞いてみたら新聞を読む人が1人もいなくてショックだったんです。ですから、もう少し若い人の部分を入れるには、主婦なんかも含めてメディアを考えてもよかったかな。もう少し広げる部分もあったかなということ。

それから、説明会の人数の集め方としては、女性を集めたら文化イベントで集まると言ったので、やはり何かとセットにして集めて説明したほうが…、空港の説明だけで来いといってもなかなか来ないと思うんですね。ですから、沖縄の文化会が前半で、観光のことも何でもいいですね。新しい文化みたいなことで、後半に空港の話を、わかりやすくするというので、そこで資料を集めて、読ん

でおいてくださいということ。そういうことがあってもよかったかなと思います。

大体資料請求というのは、1%くればいいと言われているんですね。例えばメールリングして、よその家にチラシを送ってものを買うとか、資料を請求するというのは1%ぐらいですから、かなり幅広くやらなければいけないんですけど、80何人が少ないということではないんですけどね。

もう1つ「理解できた人が8割」というのは、気持ちはわかるんですけど、取りすぎている。意図的なんでしょうけれども。やはり理解されたかどうかということをチェックするためには、ある程度無作為に人をピックアップした中で「PIをご存知でしたか」ということをやらないと、このメッセージを受けた人に対して、このメッセージがわかったかどうかという調査にはなりませんけれども、県民に那覇空港のことを理解していただいたというふうに結びつけるのは、気持ちはわかるんですけど、ちょっとまだ無理かなと。もう少しやってからのほうがいいのではないかという気がいたしました。

上間委員長

量的にたくさんやっただけでは必ずしも十分ではない。内容についてケースバイケースで方法とか、場所とか、タイミングだとか、それぞれ細かい検討をしないといけない。こういうご意見でございます。他に何かコメントございますか。

事務局

本当に具体的に細かいところまで見ていただきまして感謝申し上げます。

確かに私どもの広報の仕方が、どれだけ戦略性をもっていたかと言われると、かなり心もとないところはございます。言い訳とすれば素人集団ですからというのはありますけれども、組織として今回の経験を生かして、また今回のご指摘も十分踏まえて、もう少しポイントを絞って、戦略性をもって、言葉の使い方もおっしゃるようにあっちで言っているのと、こっちで言っているのと多少散漫になっているところがあると思います。

例えば「PI」という言葉についても「パブリック・インボルブメント」と一生懸命言ってみたり、「PI」と言ってみたり、「りっかPIさな！」を言ってみたり、言わなかったりとか、ちょっとそこらへんの迷いといたしますが、完全に焦点を絞りきれなかったところは反省としてございまして。細かくいただいたご指摘とともに、次回に生かしてまいりたいと思います。どうもありがとうございました。

上間委員長

関連でございますが、こういう広報とか啓蒙は、学問的に専門分野は広報ですか。

廻委員

広報という分野はあるみたいです。私は実務でやっていたので。

上間委員長

そういう専門家というのはいるんですか。

廻委員

専門家もいますけど。でもやはり第三者が考えるより、当事者がいろんな人から意見を聞きながら、自分たちで考える方が私はいいと思います。プロの人には考え方を教えてもらって、実際の実務は中の人が一個一個丁寧にやるのが私はいいと思います。そうじゃないとおっしゃる方もいるかもしれませんが。

上間委員長

それでは、評価のところについて何かございましたら、ご質問、ご意見を頂きたいです。結論は最後の 21 ページに P I 活動の評価について、これがまとめと思われますけれども、その表現等についてご意見ございましたらお願いしたいです。

大城委員

私は門外漢でありますので、単なる感想になるんですけども、評価の前に、評価方法ということが出てくると思うんですけど、これは 5 ページにあるんですけど、「P I 活動は適切に行われたか」というものからいくんですけども、一応計画したものを全部やりましたよというふうなことは、おそらく行政機関がそういう企画をしてやり残しをしたというのは、あまりないんですよ。ですから、それ自体は実を言うと、そのままではなくて、今、廻先生のお話を聞いていて、やっぱり専門の方が全然見方が違うなと思ったんですけど、本当に適切に行われたかどうかというのは、いわゆるそういうふうな広報の仕方のやり方が適切だったかというふうな形になるのが、それがうまくいった場合に適切にいったというふうな形になるのではないかという気がするんですね。

先ほどの話に戻るのですが、あれを見ていますと、少なくとも県内で利用できる主要なマスコミとか、それから主要な場所、機会とか、そういうふうなものはある程度網羅的になさっていると思うんです。そういうふうな意味で、そういう活動自体を適切に、一般的にみるとやったように思うんですけど、もしそのほうに廻先生が言われたようなマーケティング手法的な要素で、本当にターゲットを絞ったとか、あるいはそこに出す内容がある程度メッセージ性が強烈な印象で相手に受け取ってもらえるものでやったかとか。そういうふうなものまで入れていくと、適切に行われたかというふうなものは、少し評価の仕方として、見直しが出てくるのかなというふうに素人として思いました。

それから、周知されたかどうかというのは、実を言うと、アンケートやあるいはこの報告書の中の、これについて「ここに書いてあることがよくわかったかどうか」という形ですので、そういうふうな四肢選択でやっていくと、正直言って、説明書自体は非常にわかりやすくよくできていると思うんです。ですから、あれを見ると、その場でみんな「ああそうね」と「そういうことか」という感じで、よくわかったような気がするんですけども、それについて多少、本当によくわかっているのかどうかというのを廻先生がおっしゃるように見なければいかんというふうに言うのでしたら、周知されたかどうかというふうな評価の仕方を少し変えてくる必要があるのかなというふうに思いました。

それから、「意見を収集し、それらへの対応を示しているか」というものについては、これはほとんど全部目を通させていただいたんですけども、少なくとも寄せられた意見については、かなり細かくきちっとまとめられていて、それはよくやっているなというふうには思いました。大体そういうふうな感想を持ちました。

廻委員

実は前にちゃんとご説明いただいているので、「なんだあの時に言っていたければ」と思われたかもしれないんですが、今日は来るときに飛行機の中で3時間目がばちっとあいていたので、隅から隅までよく読んでしまった。これが不幸だったということかもしれません。よく読めたのでなるほどと思いながら読みました。

ステップ1の評価視点の1番目の「P I 活動は適切に行われたか」というのは、計画どおりに活動が実施されたかどうかについて評価しますとなりますので、そういう意味で計画どおりに、ある意味では、計画以上に評価活動が実施されたということは私は認めてはよろしいかと思うんです。ただ、もっとうまくやる方法が、もっとベターな道があるということなのですが、あと「提供した情報が周知されたか」ということは難しい。提供した情報が周知されたかという、何ををもって判断するのかわからないのですが、提供した情報がこれだとすると（参考資料1 報告書掲示）これをもった人には周知されたと思うんですよね。だから、ここの「提供した情報が周知されたか」というのは考え方によっていろいろ変わってくるんですが、ここの5ページですと、「提供した情報は多くの県民に周知されたか」となると、これは難しいかもしれない。難しいというか、もっと引き続き努力をする必要があるというふうに思われるのではないかと思います。

というのは、知られているというのには2つありまして、認知度が上がったか、「空港について議論を求めている」という点の認知度が上がったというのと、もう一つは、そのことについての内容や、現状のいろいろな課題を含めて理解したかということ、ちょっとレベルが違います。まずは認知度を広げてこういうことをやっているんだということをもみんなに知ってもらって、そのうちの何人かの

時間もあり、興味のある人は何か言ってくるだろうということ。まずは広げて、そこに絞っていく。広げた部分をはかり、どの程度わかっただけか。わかっただけか、参加してくる人と参加してこない人は個人の自由ですから。参加してくる人にはどれだけちゃんと理解してもらえたかを知る、この2段階があると思うので、そこをどう判断するかということがちょっと難しいと思うのですが、多くの県民に周知というと、かなり周知徹底とかいうわけですからちょっと認めるのは難しいかなと、もう少し続けて努力した方がいいかなという気がします。

それから、3番の「提供した情報が理解されたか」、情報が周知されたかというのと、理解されたかというのは、言葉の使いわけが難しいんですけど、同じこと、今言ったようなことが言えると思います。

それから4番は完璧にやっていたらいいと思います。

上間委員長

この種の調査でよく感ずるところがあります。調査を科学的に実施することになると、標本、サンプリングがあります。NHKの調査などは全国二千数百人だけ、あれだけ権威のある結果を出している。標本論的な立場から言えば、例えば「広く県民」といっても、いろんな層があると思います。性別の層もあるでしょうし、年齢別の層もあり、職業別の層もある。全体を代表させるということになれば、学問的な科学的なアプローチをしたほうが効率は上がると思われれます。もっと効果的に安くやる方法はあるかもしれません。考慮の余地がありそうです。

事務局

一連のご指摘に対して、本当に浸透したかどうかをはかるとというのは、例えば、一般県民に対して無作為に電話を差し上げて、終わった段階で、やっていたけれどもご存知でしたか。あるいは知っているという方に対しては、さらにその中身をというのが正当なやり方だとは思っています。ただ、おそらくそれをやっても、認知度というのは、残念ながらそれほど高い数字では出てこないというのも予想される場所ではあるんですね。それで今回やりました8割の方が理解できたというのは、確かに答えくださったという小さいサンプルの方に対して、しかもその方々は、比較的好意的に見てくださっているだろうという、そういう集団だろうと思っています。だから、我々もあまり8割理解をとということを鬼の首をとったみたい、それをあたかも定量的な評価として言うのは違うのかなと、そういうことは心しておかないといけないと思っています。

今後、ステップ2、3と積み重ねていく段階で、最後は県民全体にどれだけあまねく浸透したかということは、我々として今回のサンプルではなくて、把握することは必要だろうというふうに思いますし、それに向けた準備というの、少し委員長がおっしゃったような統計学的手法みたいなことも含めて少し勉強

を積み重ねていく必要があるのかなというふうに思っております。

上間委員長

崎山さん、評価についていかがですか。

崎山委員

評価については、今回のステップ1ということで、今回やったことをいかに最大限に生かしていくかということが重要かなと思うんですね。ちょっと前のほうに戻るかもしれませんが、やはりとても象徴的なのは、新聞に記載されたこの部分ですね。(資料2 3ページ 掲示)これはこれからしっかりと学習すべきじゃないかなと思います。皆さんの思いが全部詰まっているんだけれども、一部のみにしか伝わらない。「伝える」と「伝わる」は違うんですね。やはり伝わる方法はメディアの手法によっても、音だけ、あるいは映像を伴うもの、それから活字、それぞれ機能が違うと思うんです。ですから、これからは学習するとなると、さっき廻先生からも出たんですけども、これは本当は全く逆で、ここに小さく描かれている「あなたの声をください」を大きくやって、資料を求めるならここというふうに、むしろスペースをあける。文字で埋まっている新聞にスペースをあけたら真っ白なスペースがたくさんあって、そこに空港の荷物がまわってくるカウンターがまわっていて、あなたの声をくださいといわれたら、これは空港だとわかりますよね。ですから、少し計算をして伝え方はどうしても必要なのかなと思いました。

もう1点、より幅広い県民の声を聞くためには、空港に近い人たちだけでなく、空港を利用する人たちへの工夫が必要だとすると、さっきもお話にありましたけれども、説明会を空港だけで言われても、人は集まりませんよね。そこにやっぱり空港物語とか、せっかく沖縄の空港の持っているアジア太平洋地域における様々な交流拠点でもあり、文化の発信の場所でもあるという位置付けがあるとしたら、やはりこれまでどんなふうな沖縄の王国時代からの歴史文化もありますよね。そういう空の歴史も含めて、前半はそういうお話をさせていただきながら、今後の空港についてのイメージが広がるような工夫とか、そこらへんがとても重要なのかなというふうに思いました。

今回の結果は皆さん一生懸命頑張ったと思いますけど、もう少し工夫の仕方と、何としても女性の参加が少なかったことについて私は不平不満があります。それはさっき上間先生が難しいからおっしゃったんですが、難しいことは女性たちはちゃんと理解しておりますので、むしろ伝え方が問題だったのではないかと思います。以上です。

大城委員

結構厳しい意見が続いているんですけど、私はこの意見の収集に関する点につ

いては、実を言うとよくできていると思っています。というのは、この中に入っている報告書のアンケートがありますでしょう。このアンケートの内容程度で、チェックしていくもので、あれだけの自由意見というのがよく出てきたというので、その意見を書いた人たちの本音といたしますが、要するに中には「皆さんたち誘導しているんじゃないの」という感じのことを端的に言うのもあれば、これをこういうことでもっと考えると、ほかのところと比べると、いろいろ入っているので、こういう内容のアンケートに答えさせた中で自由意見が出てきたというのは、その自由意見の内容というのは、かなり密度が濃いような感じがしまして、そういうふうな意味で、意見の収集というのはうまくいったのではないかと。逆に言うと、関心をもっている方たちは、それなりの意見、それから言いたいことがあって、本当に答えてくれているというふうな感じがするんですね。

それで新聞その他というのは、実を言うと私もそうなんですけれども、意外と広告風に載っているものは飛ばしてしまって、記事のほうに行ってしまうとか、そういうのがあるので、なかなか新聞その他から意見を求めるというのは、難しい。端的にこういうふうな意見を書いて出すようなものが相手に渡った場合に、それが意見としてつながってくるのではないかなというふうな気がしまして、そういうふうな意味で、いかに意見を言いたいという人たちに、言う方法が伝わるかというものは、実をいうと先ほど廻先生がおっしゃったことと違う言い方だと思えますけれども、ただ、それが届いたときには、本当にそれなりに適切な意見が聞けるのではないかなという意味では、この方法は少し押し進めていってもいいのではなからうかなというふうには感じました。

上間委員長

最後になにかございましたら。どうぞ。

廻委員

PIというのは、パブリック・インボルブメントですから、広く会議を起し、万機公論に決すべしというような部分があると思います。広く会議を起す、議論を巻き起こすということは、沖縄タイムスにも書いてあります。ただ、言う人というのは、大城先生がおっしゃるように、だれでもかれでもいろんなことを床屋政談のように言われても、わからないことがたくさん出てきてもあれです。やはりこの件について県民にみんな意見を求めているんだ、ということを県の人たちに知っていただきたいということで、そのための方策としての意見を申し上げました。今までのプランが全部ダメとか言うのではなく、同じ材料をもっと上手く組み合わせたり、もっとタイミングを計ったり、もう少しメディアとメッセージの関連性を考えたりすると、もっとエネルギーが少なく効果的なことができるかなという提案でございます。これではだめじゃないかと言ったわけではないんです。ずっといつもこの分野の仕事をやっている人ですらなかなかできるものでは

ないので、そのことはよくわかります。

それで確かに大城先生がおっしゃったように意見のほうは全部読んだのですが、けれども、複数の回答もあるということを見ると、やはり思っている人はずっと思っているんですね。ただ、思っている人が思っているではなくて、いつもはそんなに思っていない人にちょっと考えていただくような、自分のこととして考えていただくような意味で、もう少し底辺を広げることができたらもっと良いです。単に本島のためだけではなくて、ハブ空港であるわけですから、地方の離島のほうの人の関心なんかもうまく引っ張ってくれたらなと思います。

上間委員長

ほかにございますか。

事務局

少し繰り返してみていますけど、端的に新聞の広告の例に見ますとおり、私どもがこれは伝えたいというメッセージをてんこ盛りにしてしまっていて、受け取る側がどんなふうに取り取られるか。あるいはそもそも我々がそこから何を引き出したいか。その階層はどうであるかというようなところが、少し我々の整理が足りなかったなという反省はいたしました。その意味でも大変貴重なご意見ありがとうございました。これを糧に次のステップに生かしていきたいとこのように考えております。どうもありがとうございました。

廻委員

資料1にいろいろな結果が出ていますよね。これをきちんとチェックをなさって、想像と意外に違うものがあったかもしれないし、想像を超えたことがあったかもしれませんが、7ページのこういうものを今までやった結果、それだけの時間とエネルギーとお金をかけて結果と勘案して、この次にやるときはどれを使うかなということをもう1回チェックなさるとよろしいかと思います。

上間委員長

それでは振興局の篠さんせっかくお見えですので、この種のPI活動というのは、全国第二種空港の整備についていろいろ実施されているのでしょうか。

沖縄振興局

私は今沖縄振興局ということで、沖縄専門にやっているもので、あまり詳しくわからないんですけども、今福岡空港と那覇空港についてやられているということです。

上間委員長

今回の結果について何かご感想ございますか。

沖縄振興局

私も東京のほうでただ眺めているだけのような感じで、あまり力を入れてなかったんですけども、本当に現地のほうではいろいろご苦労されて説明会なりをされて本当ご苦労様と思いますけど、一番最後の実施報告書の最後の今後の課題というところで、引き続き情報提供に努めると書かれておりますけど、具体的にどうということか、何か考えがあるのかわかりませんが、皆さん委員の先生方のお話を聞いて、ふと思ったのは、私ごとですけれども、私は今の職につく前は、関西国際空港株式会社というところに出向しておりました、関西国際空港も2本目の滑走路をつくるということで、さらにPRをしていたんですね。ただ、東京と大阪というのは、非常に温度差がありまして、東京の方々になかなか関空の2本目の滑走路はいらぬのではないかと。そういうことは必要だということを知っていただくために、大変苦労しておりました、じゃどうしたらいいだろうかとということで、東京に限定して、関空はターミナルというか、搭乗口が全日空の搭乗口と、日本航空の搭乗口というのがはっきり明確になっていましたので、その2カ所にPRブースというのを設けました。50インチのテレビを置きまして、そこで関空のいろいろな情報をDVDで流すとともに、こういった報告書みたいなものを、例えば関空の埋立が今どのくらいできているとか、そういった情報誌を常に定期的に置いてPRをしてきました。今回の那覇空港に関しても、一番利用される方は、関空の場合は、地元が大阪なので、東京の方だけ主にやりましたけど、那覇空港の場合は、多くのお客さんが来られる大阪便と東京便に向けて、そういった本当の簡単なパネルを何枚か、資料を置いたりして、これからこの3年間ステップ2、ステップ3とずっといくわけですけど、活動期間の例えば意見を求めている2カ月だけではなくて、定期的にそういったブースを設けたほうがいいのではないかなと。予算的なものとかいろいろあって難しいと思うんですけども、そんなことをふと思いました。

上間委員長

それではその他のお話もあるかと思しますので、この件についてはこのあたりで。1つ質問項目につき評価の文章がありますが、表現はこういうものになるんですか。随分簡単すぎる印象ですけど、もうちょっときちんとした文章にならないですか。

事務局

ステップ1の総括として、端的に言えばこれをもって終了としてよいかどうかという判断は、私ども調査主体でございます那覇空港調査連絡調整会議のほうで、この後、今回の委員会のご意見をもとにさせていただく予定にさせていただきます。

その連絡調整会議の中で、紙を1枚取りまとめようと思っ
ていまして、その中には、私どもが用意した簡単な評価と
ともに、今まさにいただいたご意見も盛り込んだ上で1
枚の紙にしたいと、こんなふうに思っております。

それをつくった上で一般の方々にもそれは周知させて
いただくと、こんな予定にさせていただきます。

上間委員長

私は別の道路懇談会にも参加しておりますが、向こうのほうでもP I活動が結構盛んで、随分やっているなという印象でしたが、ここではそれ以上にやっている印象があります。廻先生がおっしゃるように、量的にやっただけで十分といえない点もありますので、その点は、今後展開する際には、だれが、どこに、いつ、何のために、それからどんな方法でと、いわゆる5 W 1 Hを効果的にきめ細かく展開していただきたいと思
います。

評価の文章ですが、いろいろ問題をご指摘いただいたことでもあるし、大枠としては報告書内容をお認めいただいたと思
いますが、今少しきちんとした表現で評価の文章をまとめていただきたいと思
います。それから、県民から出た今後の那覇空港はこうしてほしいという課題という
か、問題指摘、このへんはどこにまとめられていますか。

大城委員

資料1の21ページです。

上間委員長

このへんも報告書の大事な結論ですよ。要するに県民が空港に関する今後の課題としてこういう期待をもっているということについては、どこにまとめられていますか。

事務局

県民のご意見はA 3の大きなものにあります。A 3にまとめた私どもの考え方、これはここに書いて終わりということではなくて、この中にもありますけれども、例えば空港ターミナルの会社ですとか、あるいは関係の行政機関等々にもできるだけ生の声として伝えていきたいというふうに思っ
ておりました、もうすでに一部始めているんですけれども、単に我々だけがこれを行っているのではなくて、情報をできるだけ共有して、できることについては早い段階からやっ
ていこうと、こんな姿勢であたっ
ていきたいというふうに考えています。

上間委員長

それでは、その他の話題に入る前に何かございますか。よろしいですか。

(異議なし)

それでは、報告書の内容、それから評価については以上のような方向で今後おまとめいただきたいと思います。

その他の件で、何かございますか。

事務局

今後のスケジュールにつきまして、少しご説明申し上げます。現在行っております調査の結果を取りまとめまして、来年度実施予定でございますP Iのステップ2の提供情報とする予定でございます。今まさに三機関のほうで調査分担してやっているところでございますので、その結果を来年度情報提供予定ということでございます。

今のところの見通しでございますけれども、それをP Iの手続きに乗せる前の段階、おおむね5月ないし6月ぐらいにこの委員会を開催させていただきまして、今年度と同様にご意見をいただきたいと思います、P Iステップ2の開始前に開催させていただくということでございます。時期が決まりましたらまたご連絡申し上げたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

上間委員長

このへんで閉じてよろしいでしょうか。なにかございましたら。

崎山委員

先ほど放映したDVDは、今後どんな活用を予定していらっしゃるんですか。例えば空港でとか。

事務局

このDVDにつきましては、今県のホームページで映像を流しております。今後説明会とかで必要な場合に、内容を検討した上で映像を流していきたいと考えております。貸し出し希望等がもしもあれば、どんどん貸し出していきたいと思っております。

いずれにしても、今ご覧いただいたのは、ステップ1の映像ということでありますので、ステップ2をするに際して、また今年度の調査内容を反映したような形でDVDないしは映像をつくりますので、その際には、もう少し面白くという要素も考えながらやっていきたいと思っております。

廻委員

ビデオですが、最後のところのステップの説明と空港の役割が逆だったらわかりやすかったですね。空港の役割を先に説明して、それからステップ1、2、3

といけばいいのですが、突然ステップと出てくるので、あれっというふうになる。知っている人はいいですけど。それで後で空港の役割がいっぱい説明される、あれを先にもってくればもうちょっとわかりやすかったのになと、見ながら思いました。もうできてしまったのは仕方ないですが。ですから、何事も素材の組み合わせなんです。どういう順番で説明したらわかりやすいかというのは、結構心砕いていただきたいです。

上間委員長

それから最後に、一般的な質問なのですが、ステップ2では、需要予測のこともあって、その情報も共有するということがありますが、ステップ3では政策まで展開されるわけですか。そうすると、今回P Iで出てきた課題というのは、現在進行中の空港整備計画との兼ね合いはどんなふうな形でやっていくことになるのですか。

事務局

今の段階で那覇空港を明確にどうする、こうするというわけではないですね。例えば新聞記事、一部の報道では那覇空港の2本目の滑走路をどうするというのが出ていたりしますけれども、我々実施主体としては、あくまでP Iのステップに沿って順番に議論を積み上げていって、需要予測もして、空港の能力限界を見極めてどうするか。その大きなどうするをする前に、既存ストックの有効活用とかいっていますけれども、既存のターミナルをどんなふうにすればより大きな能力が得られるか、そこで終わるのか、さらに次をしないと抜本的な対策にならないのか、そういったことはあくまで総合的な調査と、それと並行して行いますP I活動でしていくということですので、ステップ2までいった段階で少しやるべきことが出てくると思います。さらにステップ3までいった段階で抜本的な滑走路の問題について一定の結論が出るでしょうから、それを踏まえて今度は国の航空行政の政策の中にいかに盛り込んでもらうかという活動をもう一度そこでする、そんな大きな流れになるかと思えます。

大城委員

非常に素朴な質問なんですけど、県や市町村の広報誌にこのP Iの記事を載せていただいて、これは有料で載せていただくんですか。

事務局

無料をお願いしております。

大城委員

無料ですよ。それが一番県内では効果があって、それを聞いたときに、ちょ

っと前から聞こうか聞くまいか思ったのですが、これがいわゆる県と三市町村。那覇市・糸満・浦添ですね。県内全部の意見を求めるということでやるのであれば、県や国のほうが各市町村にそういう相談・交渉をした場合に、恐らくみんなページを割いてくれるんじゃないかという気がするんですね。少なくとも空港を抱えている離島の市町村とか、そういうところというのは、載せてもらってもいいのではないかと、もしかしたらそっちのほうが大きいのではないかと気がしました。

それから、先ほど回答とか、意見を載せるものをストレートにいただいた方たちは、そのうちの何割かはその回答を寄せてくるというふうなものをみますと、その中に回答といいますが、アンケートのようなものが入っていると、あるいは少なくとも資料がほしい方はここに請求しなさいというものがあると、何かくるのかなというふうな感じをもちまして、一番、コストのかからないものが一番大きな効果を出しているという、これは広げない手はないのではないかなというふうに思いついたんですけど、どんなものでしょうか。

事務局

ご指摘のとおりだと我々も思っております。新聞のほうが我々としてもそのお金もかけたし、これは効果が大きいのではないかと思いついてやったところがありますけれども、意外な結果を見るに新聞でこれを知ったという方の割合が低いという現実と直面する一方で、広報誌の効果の大きさですね。これは次のステップの大きな糧にしてまいりたいと、こんなふうに思っております。

上間委員長

ご意見ありがとうございました。自治体では大体2、3か月に一遍ぐらい広報紙を出していますね。結構カラー刷りの立派な広報紙です。

事務局

毎月あると思います。

上間委員長

カラー刷りの立派な広報紙、これに掲載されれば、隅々まで浸透する可能性があるかもしれません。ご意見どうもありがとうございました。

それでは、第2回那覇空港調査PI評価委員会はこれをもって終了したいと思います。どうもご苦労様でした。

司会

大変ありがとうございました。

事務局からお願いということですけど、今日いただいた先生方からのご意見等

を踏まえて資料の修正等をいたしたいと思いますが、修正につきましては、委員長ともご相談しながら、事務局に一任していただければと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

それではそういうことでよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。